
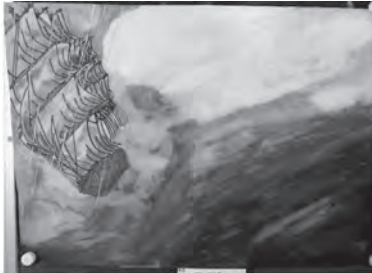


三島地区	橋本香織	茨木市立三島小学校
題材	荒海を行く	学年 5年
<p>1. 指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞の活動を通して表現の工夫や美しさに触れ、制作する作品のイメージをもつ。 ○スパッタリングやにじみ・ぼかしの特徴を理解し、波の表現に活用する。 ○波の動き、画面の奥行、波と船のバランスなど、効果的にみせる構成の工夫を考える。 <p>2. 教材・用具</p> <p>絵の具、スパッタリングあみ、ブラシ、画用紙</p> <p>3. 指導計画（全8時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①海・波や船が描かれた絵画や写真などを鑑賞し、表現の工夫みつけや作品のイメージをもつ。（1時間） ②スパッタリングやにじみ・ぼかしの技法について知る。（1時間） ③船の配置や波の動きを考えながら下絵をかく。（1時間） ④絵の具での着彩や技法を活用して表現の工夫をおこなう。（4時間） ※制作の過程で相互鑑賞を取り入れ、よさや面白さを感じ取るとともに、自分のイメージを追求していく ⑤自分や友だちの作品を鑑賞して表し方などについて話し合い、自分の活動をふりかえる。（1時間） <p>4. 表現の傾向</p> <p>波の表現を考えることを、どの児童も楽しんでいた。線で波を重ねていくことや、自由な形の波をつくっていいことなど、自由度が高かったからだと思われる。波の動きだけでなく、色にも工夫が見られた。船の帆などは単色ではなく混色で長く航海を続け嵐にもまれた様子を表現しようとしていた。また、船にあたる波のしぶきの表現では、スパッタリングよりブラシを使って船につく波のあわを表現した方が「本物っぽい」や、スパッタリングは空と波の境に使った方がよいなど、子どもなりの使い分けをしていた。背景の空と波のどちらを先に描くかで、奥行の見え方が違うということを考えて描いたり船の形や細かい部分を描いたりすることが難しい様子の児童が多くいた。そういった困り感のある児童には参考資料として船の写真や絵を渡した。そうすることで構図なども工夫をしながら下描きができ、安心して制作に臨めたようだ。作品鑑賞では、指導者が表現の工夫の説明を児童に促し、全体に説明する場面を作った。それぞれのこだわりをもった工夫に興味をもって説明を聞くとともに、自身の作品にいかそうと工夫する様子が見られた。</p> <p>5. 作品例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		